

復刊 いざみ



所沢図書館だより
復刊18号(通巻96号)
題字 高橋 玄洋 氏

目 次	
P.1	長期休館中、図書館は何をしているの？
P.2-3	枕草子「香炉峯の雪」章段と絵画(講演録)
P.4-5	知られざる図書館
P.6	所沢市とオリンピックとパラリンピック 編集後記

長期休館中、図書館は何をしているの？

所沢図書館では、毎年二月、蔵書点検のためにお休みをいただいています。

特に今年は、蔵書点検に加え、新しい図書館システムへの更新作業等を行ったため、全館同時に約二週間、休館させていただきました。

さて、皆さま、「こんなに長く休館して、図書館の中ではいったい何をしているのだろうか？」とお思いではありませんか。一見、静まりかえっているようですが、休館中も図書館内では、職員がさまざまな仕事をしています。今回は、その仕事のうちのいくつかを、ご紹介します。

まず、蔵書点検です。蔵書点検では、その時書架にある本のバーコードを一冊一冊すべて読み込み、コンピューター上の全蔵書のデータと照らし合わせます。そうすることで、行方不明になってしまった本がないか、間違った棚に置いてある本がないかなど、本の所在状況を確認するのです。年に一度のこの作業で、本館・

分館の書架と書庫、すべての本を確認するため、職員総出で数日かかるの作業となります。

蔵書点検の様子



次に、前年度の朝日・読売・毎日新聞の埼玉版の記事を、保存のために切り取る作業があります。

これは、単純ですが膨大な量がある作業で、かなりの時間が必要となります。また、たくさん新聞を広げられる作業スペースが必要となるため、休館中の読書室など、広いスペースを活用して行います。切り取った埼玉版は貴重な郷土資料なので、酸化しないよう中性紙の保存箱に入れて、書庫に入れていきます。

このほか、開館中には難しい大

がかりな書架の清掃や、本の落下防止シートの設置なども行っています。

また、今年は特に新しい図書館システムへの更新と、それに伴う機器の入れ替え作業を行いました。

具体的には、セキュリティの強化に加え、新しい蔵書検索用端末の設置、ホームページのリニューアル等です。本館の二階には、新しくデジタルサイネージ(電子看板)を設置しましたので、ぜひご利用ください。

このように、休館中の図書館では利用者の皆様が、より快適にご利用いただけるよう、職員が様々な仕事をしています。

新しくなった図書館へ、どうぞ足をお運びください。お待ちしております。



新聞の切り抜きの様子

枕草子「香炉峯の雪」章段と絵画

講師 浜口 俊裕 氏 平成29年9月16日(土) 会場：所沢図書館本館

本日は、『枕草子』の中の「香炉峯の雪」という章段が、後世の人々にどのように享受されてきたのかという点にスポットを当て、文学、絵画、教育の面から考えていきます。

【「香炉峯の雪」の解釈①】

『枕草子』の作者である清少納言は、一条天皇のお后である中宮定子の女房として宮中に仕えていました。「香炉峯の雪」の冒頭では、大雪のため早々に御格子(窓)を下ろし、角火鉢の周りで女房達が話しこんでいる様子が書かれています。そこで、中宮定子が「香炉峯の雪はいかに(香炉峯の雪はどうなっているのかしら)」と清少納言にお尋ねになります。中宮から御下問を受けた清少納言は返事をする代わりに、御格子と御簾を上げました。そうしたところ、中宮は感心してお笑いになったという内容です。清少納言の「簾を上げる」という行為は何を意味しているのでしょうか。

【白楽天と「香炉峯の雪」】

唐の都長安(現在の西安)から遠く東南に位置する香炉峯に、漢詩人である白楽天が警吏の長官として(実質、左遷された状態で)赴任します。そして、「香炉峯下新卜山居草堂初成偶題東壁」という題で有名な漢詩を詠みました。その中に「香炉峯の雪は簾をかかげて見る」という詩句があります。清少納言はこの白楽天の漢詩をうまく活用しました。中宮定子が「香炉峯の雪はいかに」とお尋ねになった時、普通は「『簾をかかげて見る』でございます」と答えば良いのです。しかし、この当時誰もが知っている有名な漢詩をそのまま文言で答えるということはある意味ではセンスのない答え方だったようです。清少納言は言葉ではなく、行動で示しました。同僚の女房に御格子を上げさせ、自身は御簾を上げることで、中宮定子の御下問に答えたのです。そうしたところ、中宮は大変感心してお笑いになりました。

【「香炉峯の雪」の解釈②】

次の場面では、周りにいた他の女房たちが、清少納言のような行為は思いもつかなかった、清少納言は中宮にお仕えする人として適格だと称賛したという解釈が一般的です。このような解釈をされていたために、「香炉峯の雪」は、清少納言が中宮の御下問に当意即妙に対応したことを自慢する自讃譚であると考えられてきました。

そのため、清少納言は傲慢な人物だと長い間誤解されてきたのです。しかし、『日本古典集成』(新潮社)では、異なる解釈をしています。中宮の「香炉峯の雪はいかに」という御下問そのものに「御簾を上げなさい」という意味が込められており、そのことに清少納言以外の女房たちは気がつかなかったという解釈です。このような観点で整理すると、「香炉峯の雪」の章段のねらいは、せっかくこんな雪が降っているのだから、御簾を上げて雪景色を楽しみなさいと女房たちにそれとなく促した中宮を称賛するために執筆されたのではないかと考えられます。清少納言は、中宮定子を称賛するために

「香炉峯の雪」を執筆したのであって、決して自らの機知を自慢することがねらいではなかったのです。

ここまで文学的な解釈についてお話ししました。その後、「香炉峯の雪」は、様々な文学作品に引用されていくことになりました。

【「十訓抄」における「香炉峯の雪」】

『十訓抄』は『枕草子』の二五二年後頃に成立した説話文学です。そこには、清少納言が中宮定子の女房ではなく、一条天皇の女房として登場します。史実としては誤りですが、説話文学の性質上、皇后よりも天皇に称賛された方が清少納言の名声が伝わるため、話を変容させたのではないかと考えられます。また、『十訓抄』の絵入り本には、御簾を上げる清少納言の姿や、御簾に顔が隠れた一条天皇の姿が描かれています。その後、江戸期になると『十訓抄』の流れをくんだ作品が様々な形で出てきます。江戸時代のベストセラー『繪本故事談』でも、清少納言は一条天皇の女房であるという設定が採用されています。天皇が「香炉峯

の雪はいかに」とお尋ねになったとき、おそばにいた公卿たちはみな答えることができなかつたが、清少納言は御簾を上げることができたので、天皇はひどく感激されたという内容になっています。

【絵画にみる「香炉峯の雪」】

また、「香炉峯の雪」にちなんだ絵画も多く現存しています。伝土佐光信の作品には、雪の降る様や清少納言と思われる女性が簾を上げる様子が描かれています。この作品は、人物だけでなく庭の景色も描いた「景観一体型」の絵画です。その他に、清少納言その人にスポットをあてた絵画もあります。梶田半古、上村松園、鏑木清方、伊東深水などやまと絵の絵師たちによる清少納言の絵は、みな同じような構図で描かれています。今なら盗作と言われてしまうかもしれないませんが、この時代、弟子は師匠の作風に似せて描くことが普通だったため、似たような作品が多く残っています。その他、「遠山型」（香炉峯をイメージした山を描くこと）、「背面型」（清少納

言の後ろ姿を描く）など様々な描かれ方をしています。また、安達吟光の作品には、庭の景色の中に鴨が巣立つ姿などが描かれています。これは『枕草子』原典には無い描写で、吟光の構想力によって描かれた付属の光景です。その他にも、清少納言と猫が一緒に描かれているものもあります。江戸時代の美人画では、猫と女性がセットで描かれることが多かったようです。さらに、私のゼミの学生が卒業式で着ていた巻きスカートにも「香炉峯の雪」の絵柄がデザインされています。いかに「香炉峯の雪」の絵画が広がりを見たかということが窺えます。

【児童向け雑誌や教科書に

みられる教育的側面】

明治初期の児童雑誌『小国民』の口絵には、清少納言や御簾、御格子のほかに、雪や松など外の情景も作品に忠実に描かれています。これは小林清親という画家の作品で、子ども向けの雑誌ですが、かなり緻密に描かれていて教育的な配慮が感じられます。また、明治から昭和にかけて「香炉峯の雪」

は双六やかるとにもデザインされるようになります。明治三十四年刊行の雑誌の付録「教訓名婦双六」や、画家の梶田半古による「名媛絵端書双六」（明治三十九年）には、清少納言が名媛（才女）として描かれています。『枕草子』の章段は数多くありますが、これほど多くの絵素材として使われているのは「香炉峯の雪」だけです。また、かるたの読み札にも「抜け出でて才名高し香爐峯 清少納言」とあり、清少納言の才名をかるた遊びで子どもたちに伝えていきます。さらに、今でいう小学五年生用の教科書『国定教科書尋常小学読本卷十』（明治四十三年（一九一〇年）刊行）にも掲載があります。これは『枕草子』の原本に則した内容で、清少納言は中宮定子の女房とされています。ところで、なぜ「香炉峯の雪」が、小学校の教科書の題材として用いられたのでしょうか。それは、日露戦争直後という時局が関係しています。皇后に奉仕する清少納言の忠義心、教養の高さや勤勉さ、そういったものを教え込むのに「香炉峯の雪」は格好の教材だったのでないで

でしょうか。さらに、昭和十年（十六年）の間刊行された小学校二年生用の『新訂高等小学唱歌』には、なんと「香炉峯の雪」が音楽の教材になっています。これには男子用・女子用があり、女子用の方にだけ「香炉峯の雪」が入っています。こちらも女生徒に対して「清少納言のようになりなさい」と教化する目的があったのでしよう。このように、『枕草子』「香炉峯の雪」は、文学や絵画、時には音楽など様々な角度で後世の人々に伝えられ、その時代に応じて教育的題材としても享受されてきた作品であったといえます。

《講師紹介》

浜口 俊裕（はまぐち としひろ）

大東文化大学文学部日本文学科准教授。著書は『枕草子の新研究 作品の世界を考える』（共編著／二〇〇六年）『枕草子大事典』（共編著／二〇〇一年）など。



浜口 俊裕 先生

知られざる図書館

あなたのお住まいの近くにも！地域の中の図書館分館

【所沢図書館の分館】

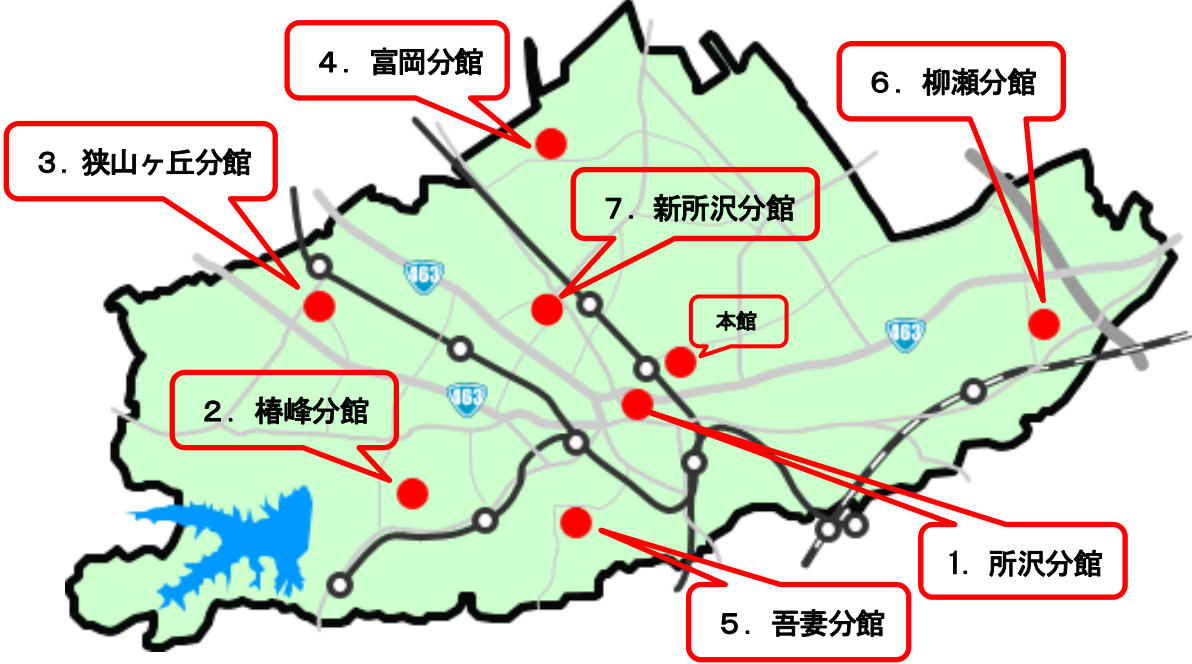
所沢市には、航空公園内の所沢図書館本館の他に、七か所の分館があります。

それぞれの分館は、地域の特色を活かして、地域に密着した図書館として、積極的に活動しています。

地域密着：なので、異なる地域の図書館については、あまりご存じでない方が多いようです。「あるのは知っているけれど…」という声を耳にすることもしばしば。時々、少しだけ遠出して、違う図書館にも足を運んでいただきたい。そんな願いを込めて、意外と知られていない市内各分館のサービスを紹介します！

【1 所沢分館】

所沢分館は、市内図書館で唯一、CD・DVD等の



【2 椿峰分館】

椿峰分館は、周囲を森に囲まれた自然豊かな環境にあります。春



所沢分館・高橋玄洋コーナー

視聴覚資料を所蔵しており定例の映画会や、レコードコンサートなどのイベントを開催しています。また、所沢市在住のシナリオ作家・高橋玄洋氏の特設コーナーでは、高橋氏のシナリオやDVDなどを展示しています。建物前のコミュニティ広場は、所沢市最大のイベント「ところざわまつり」の会場にもなります。「ところざわまつり」開催中は、所沢分館もまつり会場と一体となり、一日の入館者数が普段の三倍に達することもあります。分館周辺は旧町と呼ばれる歴史ある市街や寺社が点在しており、所沢の歴史に触れることもできます。

【3 狭山ヶ丘分館】

狭山ヶ丘分館は、住宅街にあるこぢんまりとした図書館ですが、蔵書数は分館で三番目に多く、子ども優先の閲覧席を設けるなど、図書館機能をコンパクトにまとめ提供しています。

さらに、同じ狭山ヶ丘コミュニ



椿峰分館・館内の様子

は、ウグイスのさえずりが間近で聞こえ、周辺ではトカゲ、ヤモリ、時にはヘビを見つれることができます。館内には「埋蔵文化財展示室」があり、椿峰地区で発掘された埋蔵品が展示されています。また「くつろぎるうむ」は、イベントがないときは親子連れや子どもたちに開放していますので、紙芝居や絵本を声に出して読むことができます。その他、近隣の児童館や公民館とのイベント共催などを行っています。

テイセンター内にある、狭山ヶ丘サービスコーナーや老人福祉センターさやまがおか荘とイベントの共催などで、協力しあっています。

地域連携では、地区内のコミュニティへの出張おはなし会や児童館でのかるた会の開催、市内の大学とのおはなし会の共催、ボランティアグループによる定期的なおはなし会なども行っています。



狭山ヶ丘コミュニティセンター外観

【4 富岡分館】

富岡地区は、川越藩主柳沢吉保の命で新田が開拓された当時の姿をそのまま残しており、埼玉県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」として、その景観保存が図られています。分館周辺も茶畑に囲まれ、どこかで緑あふれる環境にあります。富岡分館では、未就学児を対象とした読み聞かせに力を入れており、毎週水曜日に、年齢別に二種類のおはなし会を開催しています。さらに地域連携として、日本大

学芸術学部のマジック研究会に公演をお願いしており、大道芸やマジックを観たあとには、自分で体験できる時間を設けるなど、子どもからお年寄りまで楽しんでご参加いただいている、人気のイベントです。



富岡分館マスコットの「トミトミ」と「おかみ」

【5 吾妻分館】

吾妻分館は、市内で一番小さな図書館です。書架にある資料の数は限られますが、利用者のニーズに応えられるよう奮闘しています。周辺は、緑豊かな狭山丘陵が広がる土地柄で、近隣施設「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」との共催イベント等も行っています。さらに吾妻まちづくりセンターと協力し、子育て支援講座や、大人向けのおはなし会を共催しています。



「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」との共催イベント

【6 柳瀬分館】

柳瀬分館の近隣には、かつて北条氏照が城主であった滝の城がありました。その跡地にある滝の城ま址公園では、毎年五月に滝の城まつりが開催され、東所沢駅から滝の城まで甲冑行列などが催されます。

柳瀬分館では、滝の城まつりに合わせて関連資料を展示し好評を得ています。柳瀬分館の特徴は、貸出資料の約四十%が児童書であることで、週末は親子連れの利用が多い賑やかな図書館です。この特徴を活かして、毎週土曜日の午前中におはなし会を行い、年間延べ千百名以上の子どもたちを楽しんでもらうなど、児童サービスの充実を力を入れています。



柳瀬分館入口

【7 新所沢分館】

新所沢分館は、開館して六年目の新しい図書館です。市内で唯一、平日（月曜は休館、祝休日を除く）夜九時まで開館しており、仕事帰りでも立ち寄れる図書館として、多くの方にご利用いただいています。館内はワンフロア構造で、児童書、新聞・雑誌、一般書など、全てのコーナーが同じフロアにあります。そのため、ご家族で来館されたお子さんと親御さんが、お互いの顔が見える距離で本を選んだり、読書をしたりすることができます。

地域との連携については、みどり児童館への出張おはなし会や、「キッズライブラリアン体験」などのイベント共催、中学校等への資料貸出や、ブックリストの共同制作などを行っています。



新所沢分館・こども読書席

所沢市とオリンピックと パラリンピック

★所沢市が二〇二〇東京パラリンピック「ゴールボール」の強化拠点に！

所沢市民体育館が、東京パラリンピックの強化拠点施設の指定を受けました。

ゴールボールとは、目隠しをしながら、ゴールに向かって、鈴の入ったボールを転がすように投球し合い得点を競う競技です。審判が「Quiet Please」（お静かに）のコールをしたら、静かに見守るのがルールです。

二〇一二年ロンドンパラリンピックで女子が金メダル、二〇一六年リオデジャネイロパラリンピックでは五位に入賞するなど、今後も活躍が期待されています。また、市内の小学校では障害者スポーツの普及・発展を目的として、ゴールボールの体験会も行っています。

★イタリアオリンピックピックチームのキャンプ地に決定！

早稲田大学所沢キャンパスを拠

点とし、陸上水泳など複数競技、二〇〇人以上の選手が事前トレーニングキャンプを実施する予定です。

オリンピック雑学

◆オリンピックの歴史

オリンピックの始まりは、約二七〇〇年前に遡ります。

紀元前七七六年から紀元後三九三年まで、ギリシャで古代オリンピックが行われていました。このときからすでに、四年に一度の開催であり、前後の三か月間を含む七か月間は、戦争中であっても戦いを休止し、大会を優先していました。

その後、一度途絶えた古代オリンピックが、一八九六年に近代オリンピックとして復活しました。一位には銀メダル、二位には銅メダルが贈られ、三位のメダルはありませんでした。金・銀・銅の三種のメダルが贈られるようになったのは、第三回大会からとなっています。

◆今は行われていない競技

古代オリンピックでは、馬が引

く戦車で速さを競う戦車競走、かぶと等を身につけて走る武装競走、目つぶしと噛みつき以外であれば何をしてもよい総合格闘技であるパンクラチオン等、現代にはない過酷な競技が存在しました。近代オリンピックにおいても、綱引き、凧揚げ、魚釣り等、現在は行われていない競技が存在しました。さらに、建築、彫刻、絵画、文学、音楽の五つの部門の芸術が競技となっていた大会もあり、スポーツに関係する作品が募集され、順位がつけられていました。

【参考文献】

『オリンピックのすべて』
ジム・パリイ／著
ヴァシル・ギルギノフ／著
舛本直文／訳・著 大修館書店
『オリンピック大事典』
和田浩一／監修 金の星社 他

編集後記

・平昌オリンピック。選手の活躍には、感動をもらいました（S）
・東京大会まであと二年。時が経つのは早いですね。（N）

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

携帯電話 <https://www.tokorozawa-library.jp/k/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館	04-2995-6311 / 04-2992-1421	富岡分館	04-2943-3636 / 04-2943-6680
所沢分館	04-2923-1243 / 04-2928-8195	吾妻分館	04-2924-0249 / 04-2928-8250
椿峰分館	04-2924-8041 / 04-2928-8148	柳瀬分館	04-2944-4023 / 04-2945-7236
狭山ヶ丘分館	04-2949-1193 / 04-2949-8577	新所沢分館	04-2929-1905 / 04-2929-1906
松井小学校図書館	04-2992-2796 / 04-2992-2797		

2018年3月30日発行 復刊いずみ18号 (通巻96号)